

平成27年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

1. 概要

平成 27 年（1 月～12 月）の柳川市への観光客の入込客数は、平成 26 年の約 125 万 9 千人から約 10 万 7 千人増加し、約 136 万 6 千人だった。この数字は、過去最高の入り込みとなった。

月別にみると 3 月、4 月がピークであり、要因としては、気候もよくなり、川下りや「柳川雛祭り・さげもんめぐり」「中山大藤まつり」といった柳川市を代表するイベントによる入り込みが多いと考えられる。また、まち歩きを楽しむ観光客も増えている印象を受ける。

観光消費額は、入込客数の増加に伴い、平成 26 年の約 52 億 3 千万円から約 60 億円と増加した。そのため、1 人当たりの消費額は、平成 26 年の約 4,150 円から約 4,430 円と増加した。

宿泊客数は、平成 26 年の約 4 万 2 千人から約 4 万 7 千人に増加。これは、6 月から実施された福岡県の「ふるさと旅行券事業」などの効果によるものと思われる。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約 56%、西鉄電車利用者が約 26%、大型バス利用者が約 18%の割合となっている。割合だけを見ると、乗用車利用が全体の半数以上で平成 26 年より約 2%増加していることから、個人観光客が多く占めている状況は変わらない。しかしながら、大型バスの利用者を見ると、バス料金の改定で料金が上がったことで苦戦したものの、平成 26 年と比べて約 1 万 7 千人増加しており、団体客も増加傾向にあることがうかがえる。

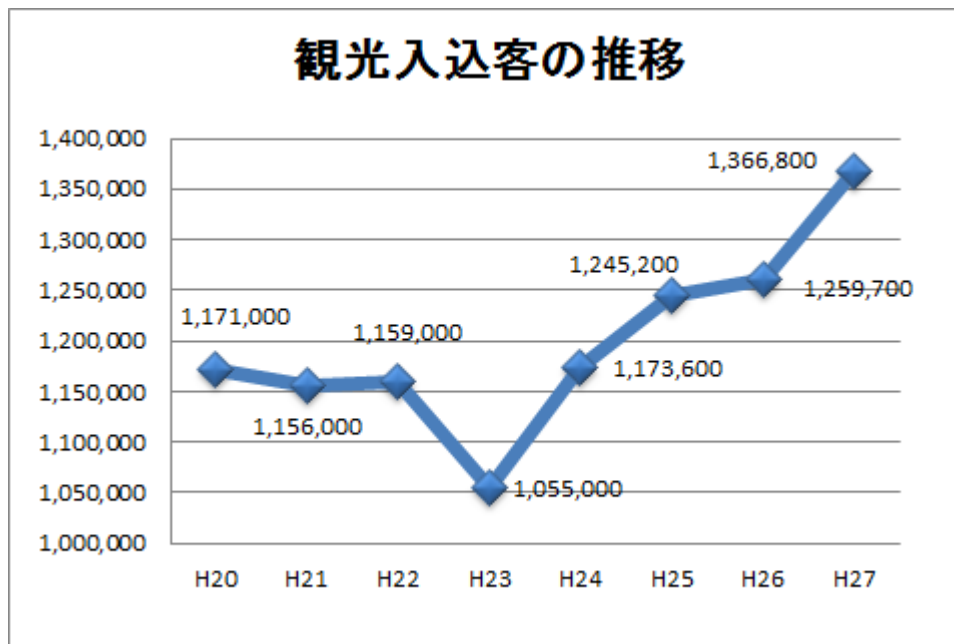
川下りの利用客は、平成 26 年の約 34 万 9 千人から約 38 万 8 千人となり、約 4 万人の増加。4 年連続で増加傾向にあり、合併後最高を記録した。要因の一つとしては、外国人観光客の増加及び乗用車利用の個人客の増加が考えられる。

その本市に訪れた外国人観光客は約 14 万 9 千人と、初の 10 万人を突破。平成 26 年の約 9 万人と比べて約 65%の増となっており、外国人観光客の伸びが顕著になっている。

2. 観光入込客数

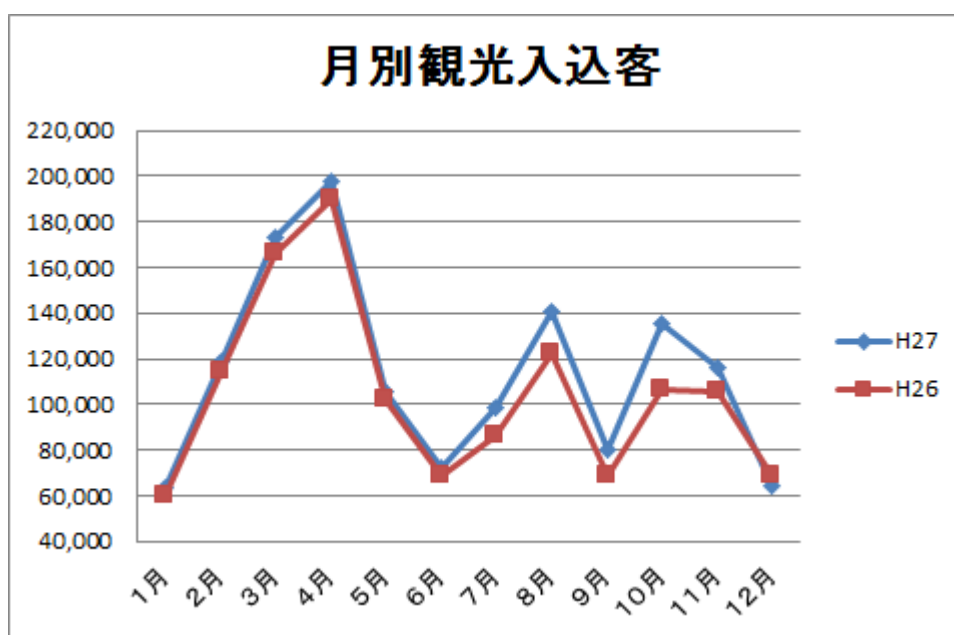
(1) 観光入込客の推移

観光客の入込客数は、約 136 万 6 千人で、平成 26 年と比較すると 10 万 7 千人の増加となっている。主な増加の要因は、川下りや各イベントの市外からのお客様の割合が高まったことや外国人観光客の増加が考えられる。



(2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、春先の 3 月、4 月がピークであり、これは、2 月から開催される「さげもんめぐり」や「中山大藤まつり」などのイベントの集客が大きいと考えられる。傾向的に例年同様の推移が見られる。



3. 観光消費額

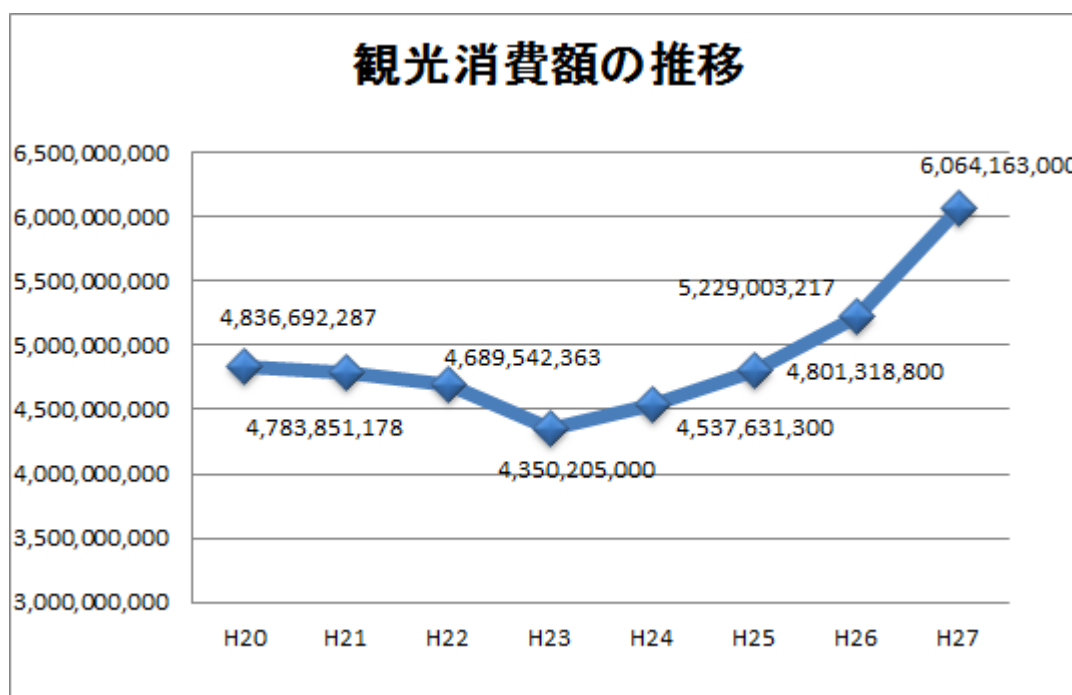
(1) 観光消費額の推移

推計消費額は、入込客数の増加に伴い約 60 億円で、平成 26 年と比較して約 8 億 3 千万円の増加となった。そのため、1 人当たりの消費額は約 4,430 円で、平成 26 年と比較して約 280 円増加した。

これは、個人旅行者や外国人旅行者、宿泊客、イベントへのお客様の増加により、入込客数が増えたことで、消費額が増えたものと考えられる。

最も高い消費額は食事代で、約 25 億 1 千万円。次に、お土産代の約 22 億 3 千万円。

また、宿泊が約 5 億 9 千万円、川下りが約 5 億 2 千万円となっている。

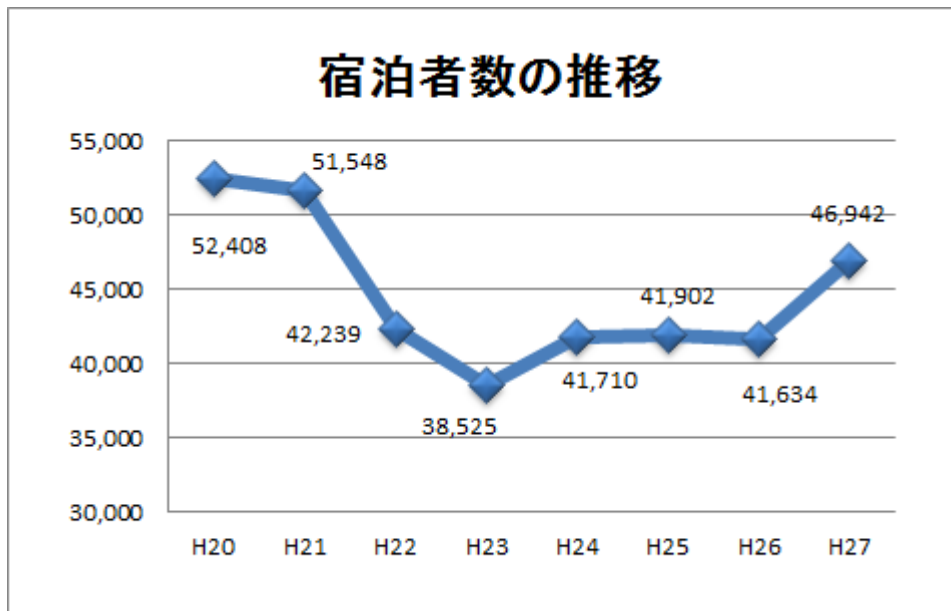


4. 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

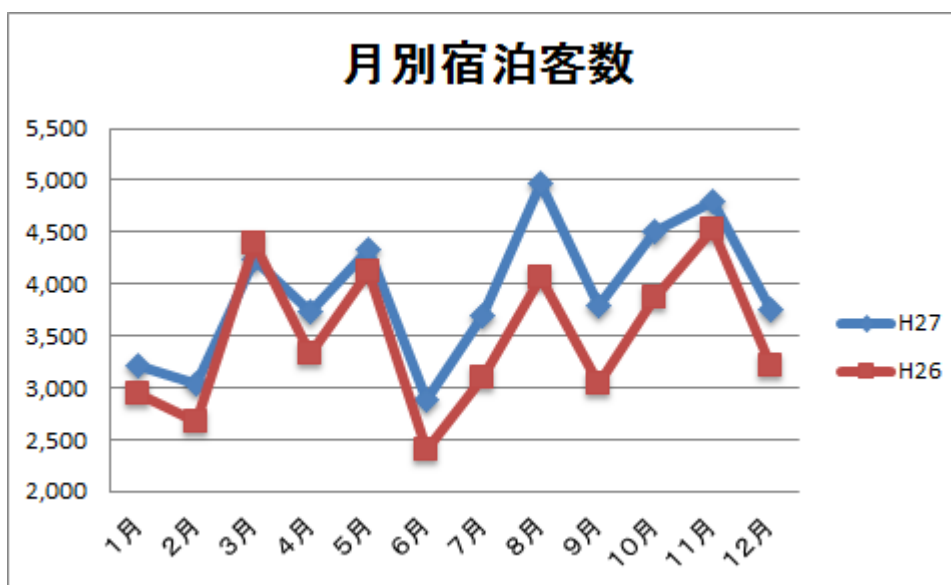
宿泊客は、約 4 万 7 千人であり、平成 26 年と比べて約 5 千人増加している。

また、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約 3.4%であり、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている状況がうかがえる。



(2) 宿泊客数と観光入込客（月別）

平成 27 年の月別宿泊客数では、8 月と 11 月がピークとなっている。

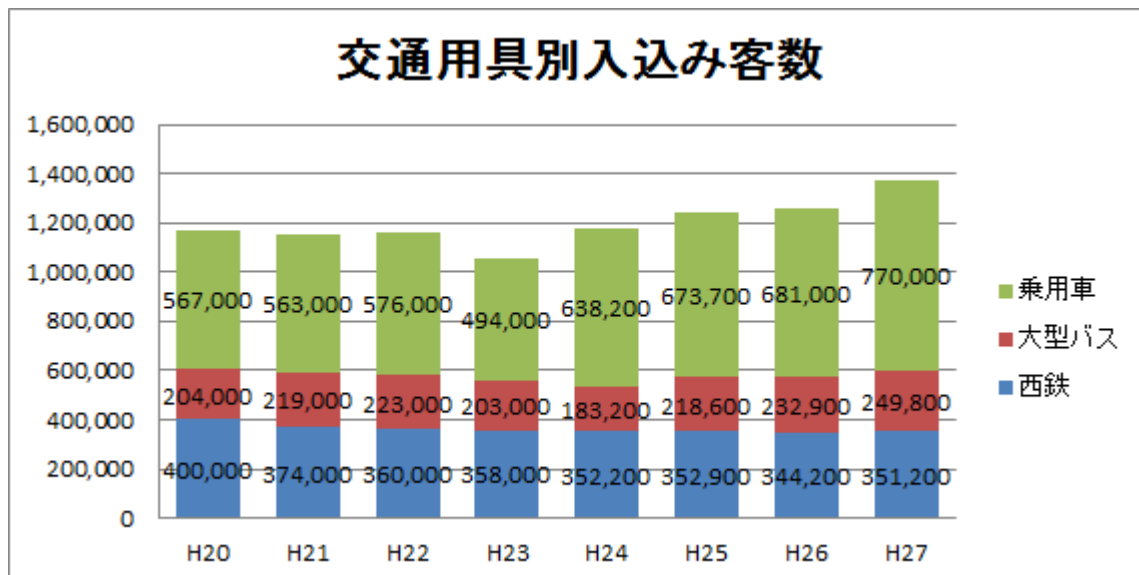


5. 個別の交通機関

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の56%を占め、西鉄電車利用者が約26%、大型バス利用者が約18%となっている。

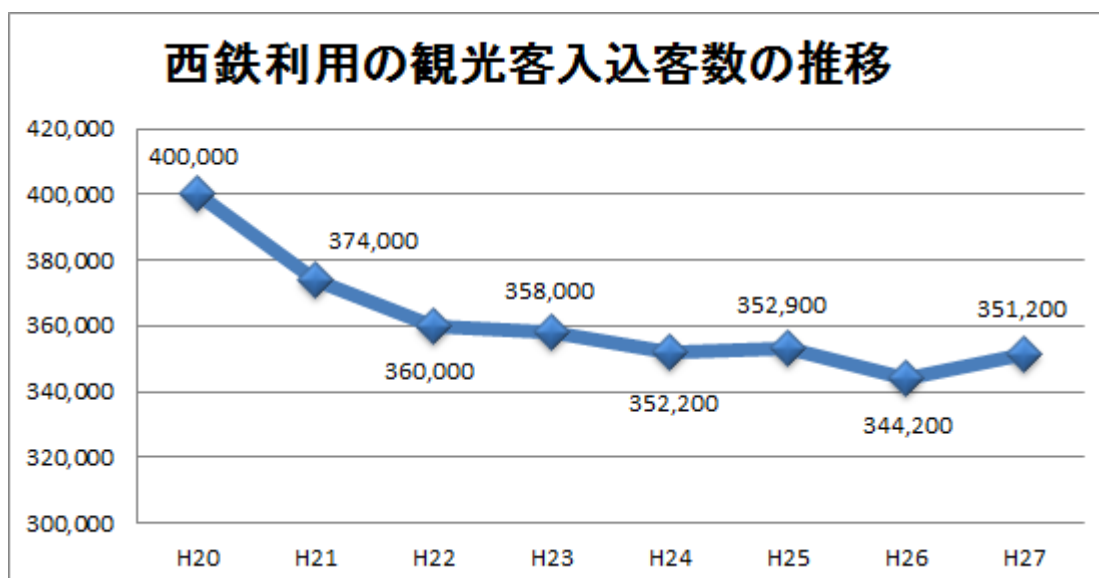
このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることがわかる。

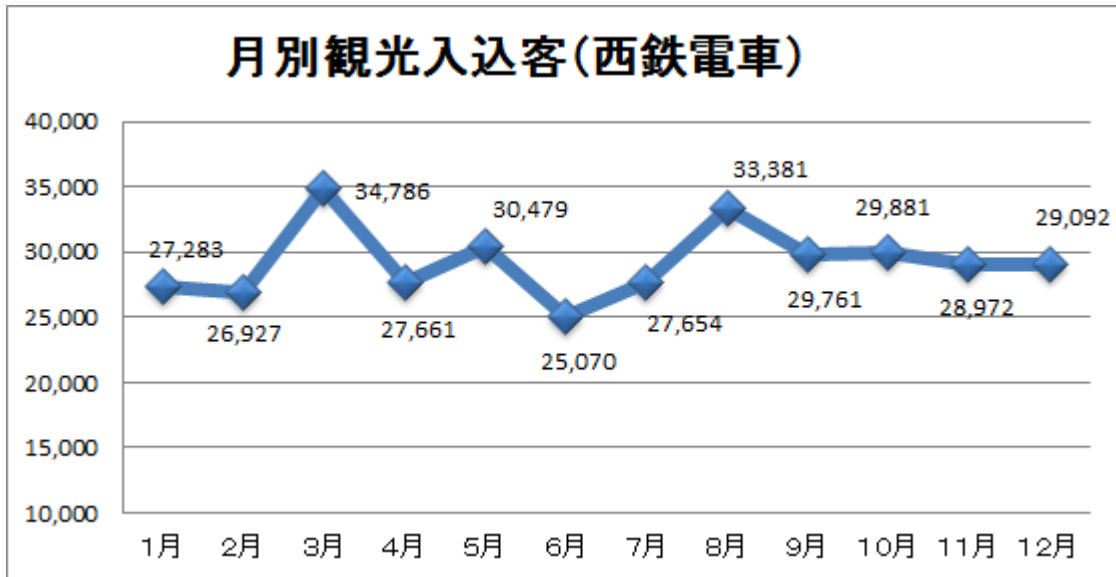


(2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約194万3千人であり、平成26年と比べて約4万人の増加となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、35万1千人と推計され、全体の観光客数の内、約26%と推計される。

西鉄利用の観光客の内、西鉄が販売している「柳川特盛きっぷ」や「湯ったり柳川きっぷ」といった企画きっぷを利用して訪問される観光客も見られる。

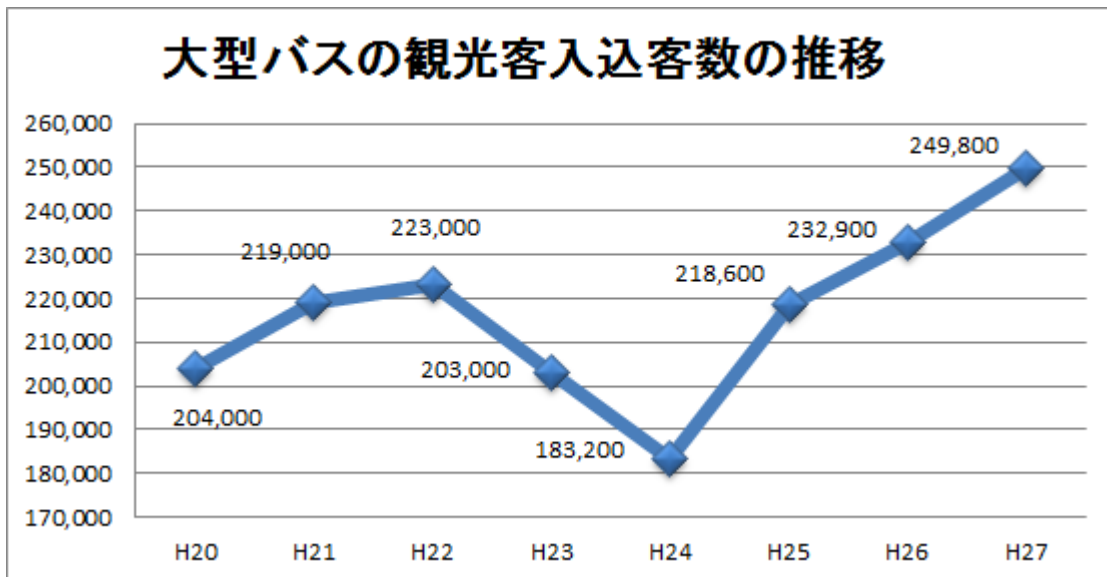


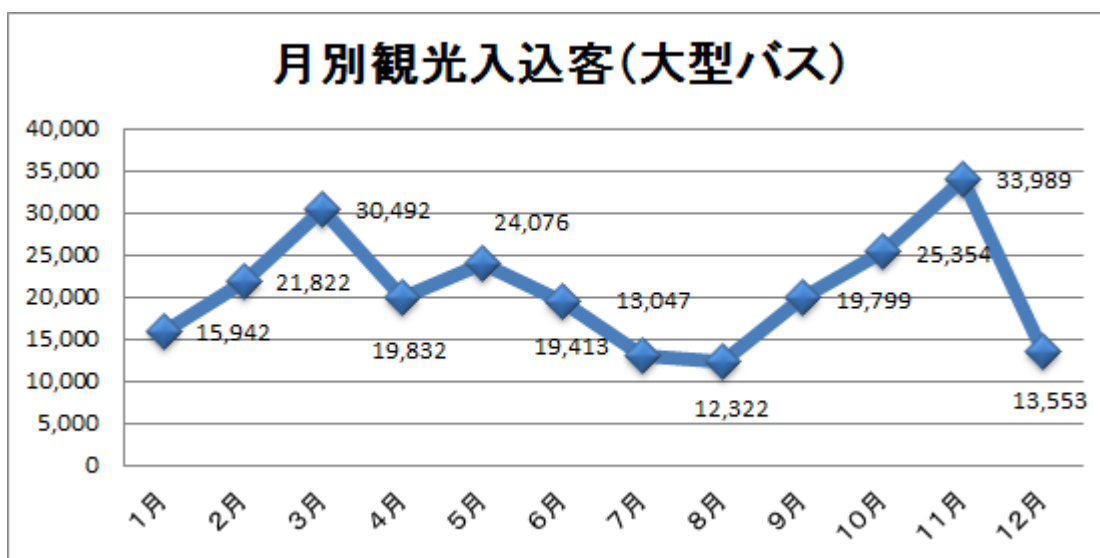


(3) 大型バス

主要駐車場の大型バスの台数状況を見ると、延べ約4千1百台の駐車があり、平成26年と比較して300台ほど減少している。これは、バス料金の改定で料金が上がり苦戦したことや柳川藩立花邸御花の対月館の改修が影響していると思われる。しかし、川下り客が増加していることから、舟会社の駐車場を利用した川下り客も相当数いたと見込まれる。

大型バスを利用する入込み客数は、約25万人で全体の約18%を占めている。

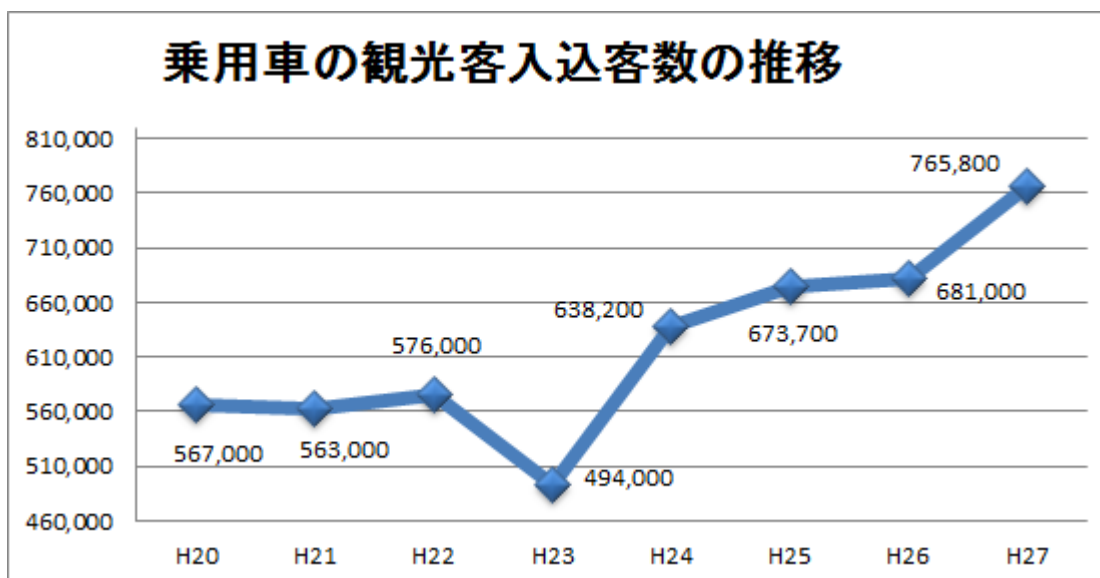




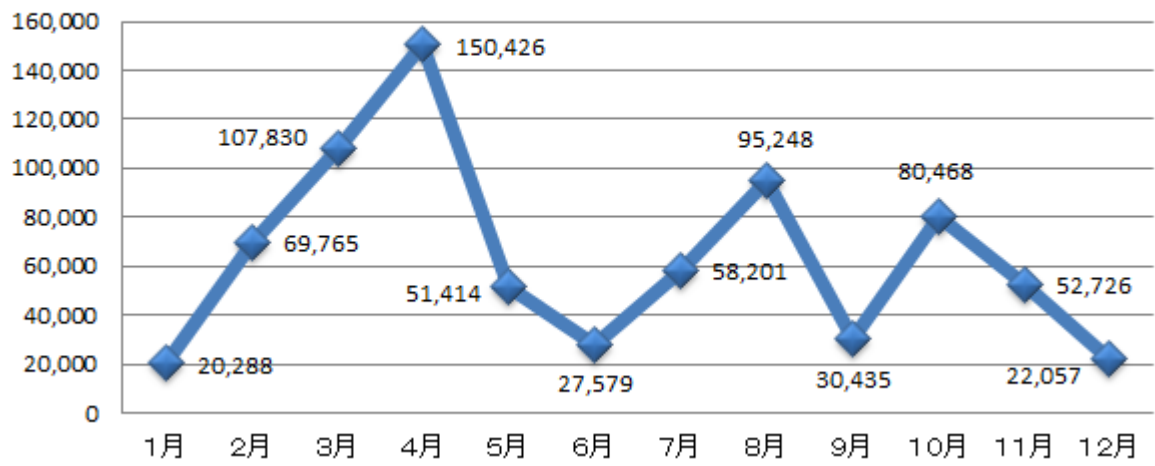
(4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況を見ると、約 1 万 5 千台であり、平成 26 年と比較して約 3 千 9 百台の増加だった。

マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込客は、約 76 万 7 千人で、全体の 56%を占めている。



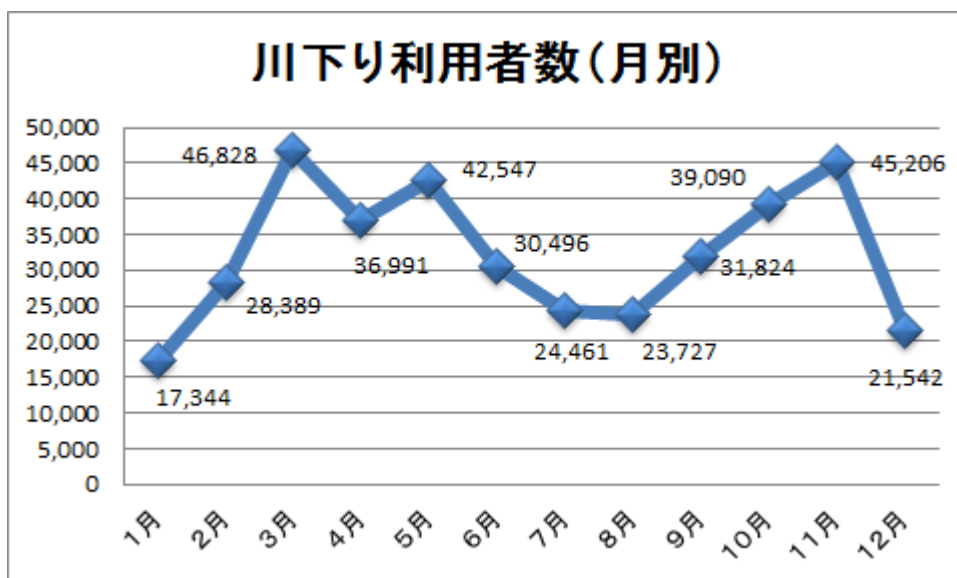
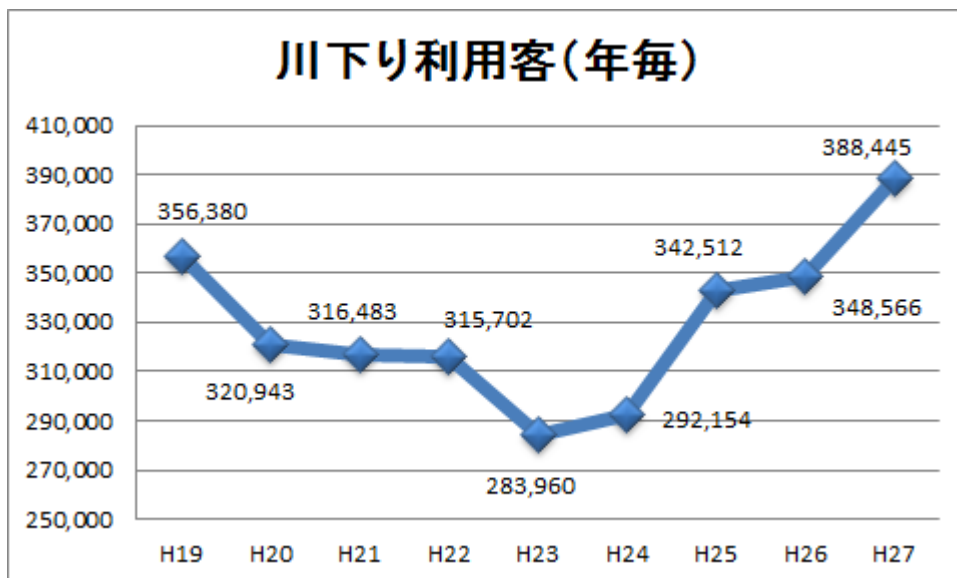
月別観光入込客(乗用車)



6. 主な観光施設の入込客数

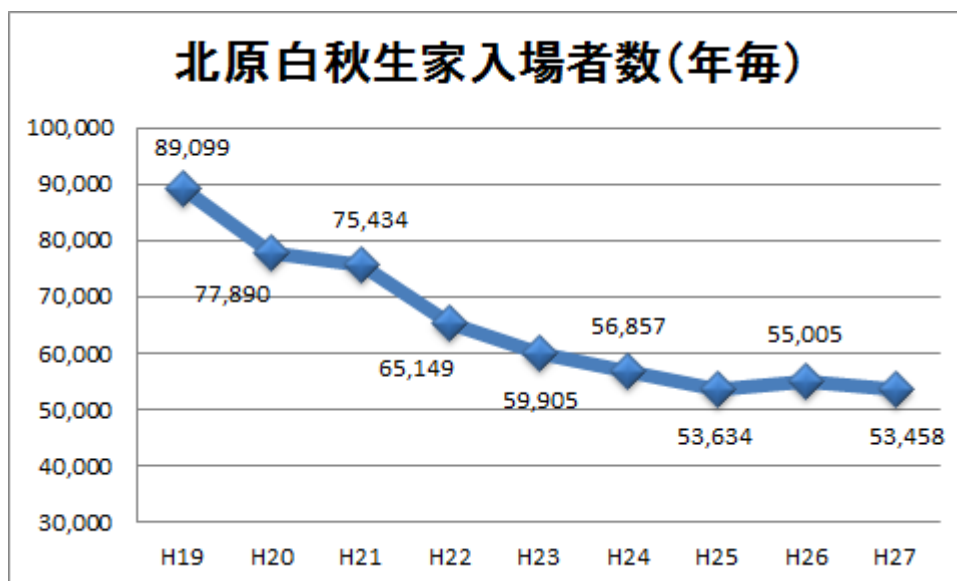
(1) 川下り

川下り利用者については、約39万人で、平成26年と比べると約4万人増加となった。平成24年から増加傾向が続いており、合併後最高を記録した。



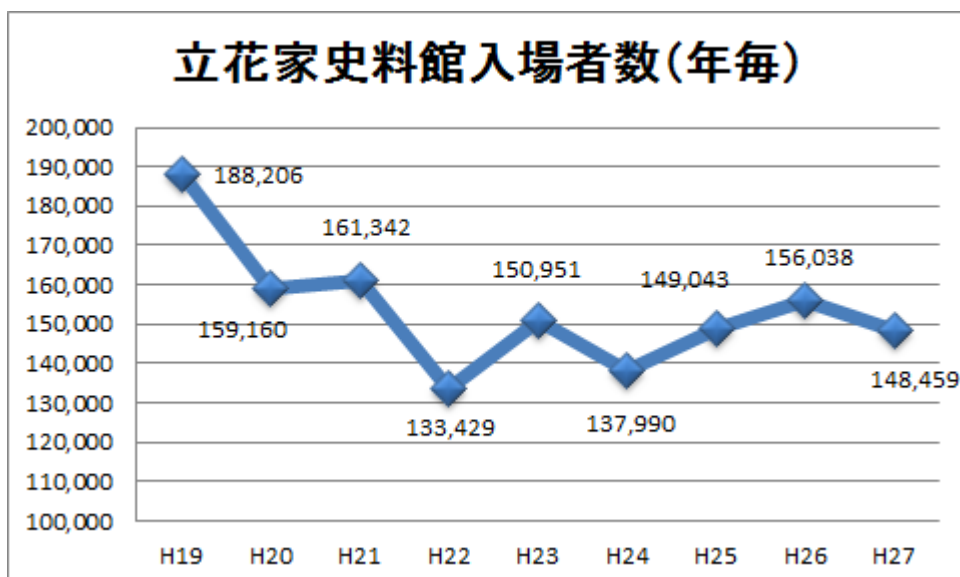
(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入場者数は、約5万3千人であり、平成26年は増加を示したが、全体としては減少傾向が続いている。



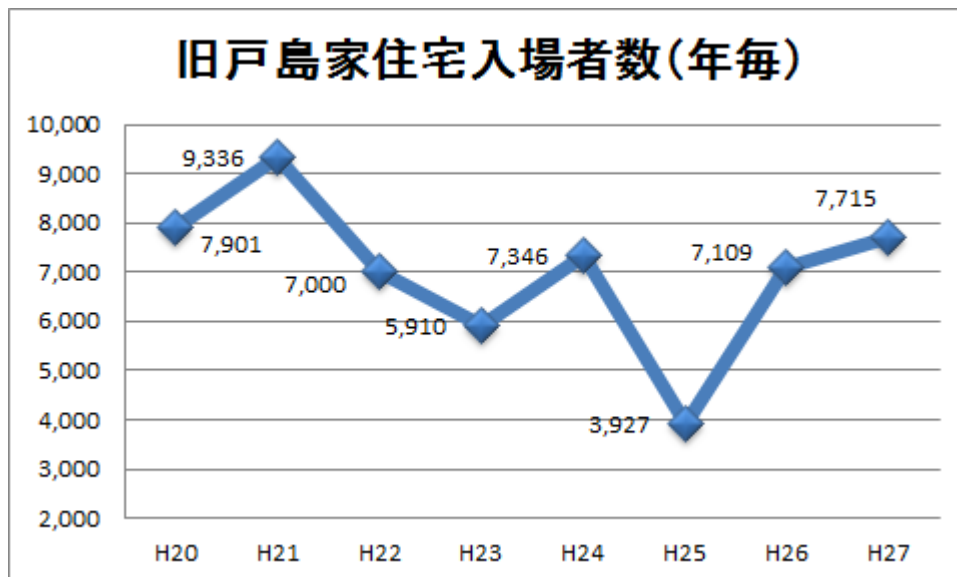
(3) 立花家史料館

立花家史料館の入場者数は、約14万8千人で平成26年と比べて約7千人の減少となった。これは、レストラン「対月館」の改修の影響があったとみられる。



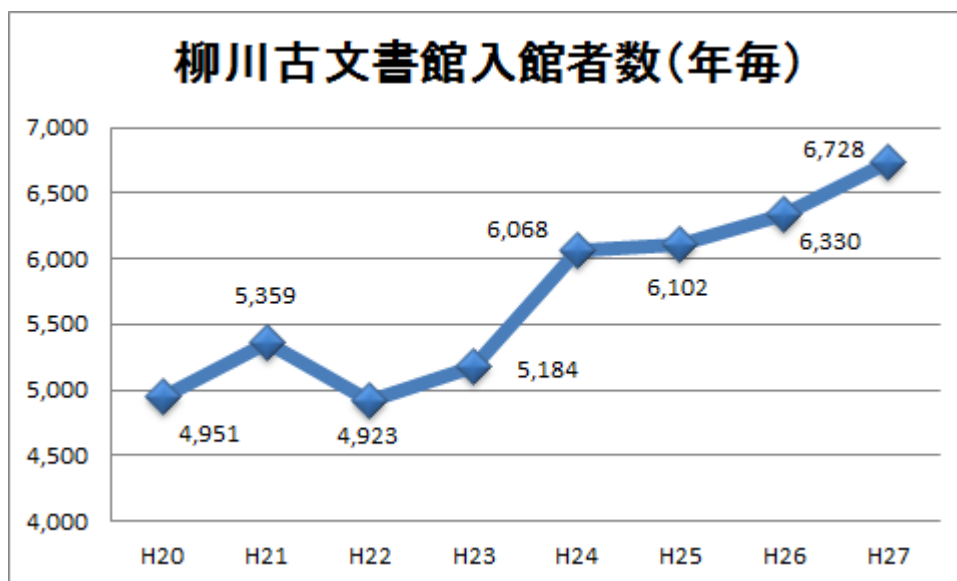
(4) 旧戸島家住宅

旧戸島家住宅は、柳川地方の武家住宅の典型例として、昭和 32（1957）年に建物と庭園がそれぞれ福岡県の文化財に指定。また、昭和 53（1978）年には、庭園が国の名勝にしてされている。旧戸島家住宅の入場者数は、約 7,700 人で、平成 26 年より約 600 人増加した。



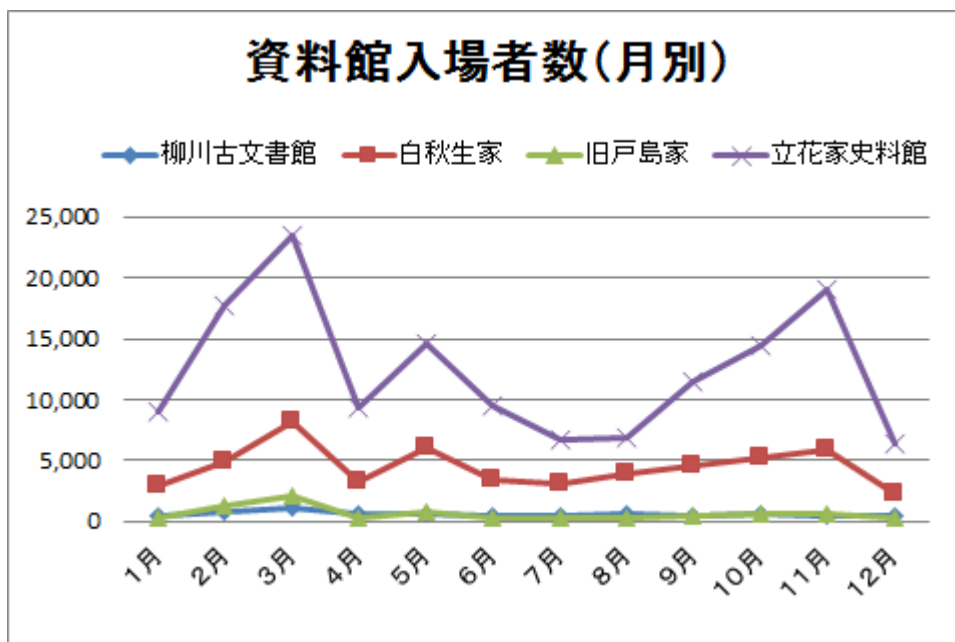
(5) 柳川古文書館

柳川古文書館は、設置は福岡県・福岡県教育委員会で、運営管理を柳川市・柳川市教育委員会でやっている。収蔵史料で、鷹尾神社大宮司家文書などは国指定重要文化財に指定。その柳川古文書館の入館者数は約 6,700 人。入館者数は増加傾向にある。



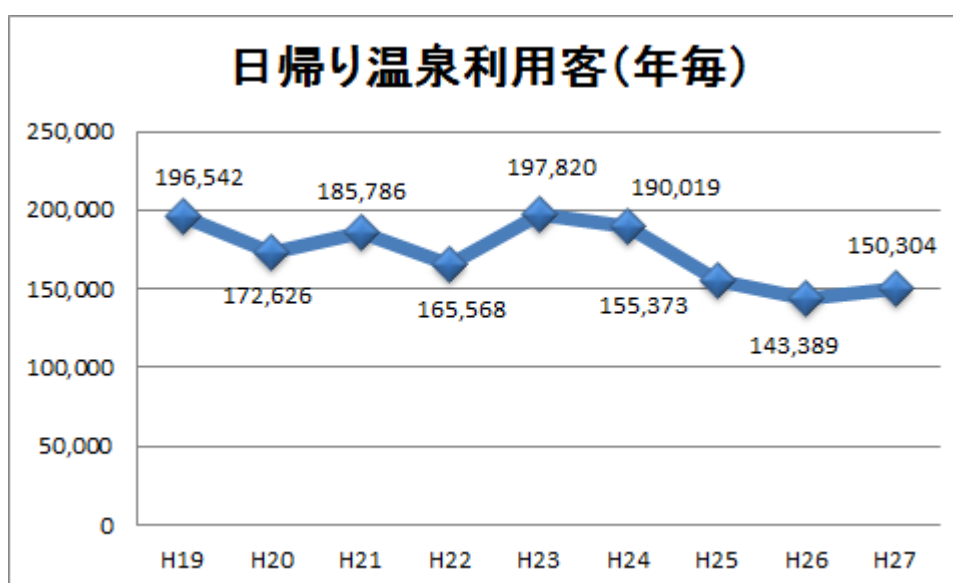
(6) 資料館入場者数(月別)

資料館別に入場者数をみると、立花家史料館が最も入場者数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家へ来館された方は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数は北原白秋生家 5 万 3 千人に対して旧戸島家住宅が 7 千人となっている。

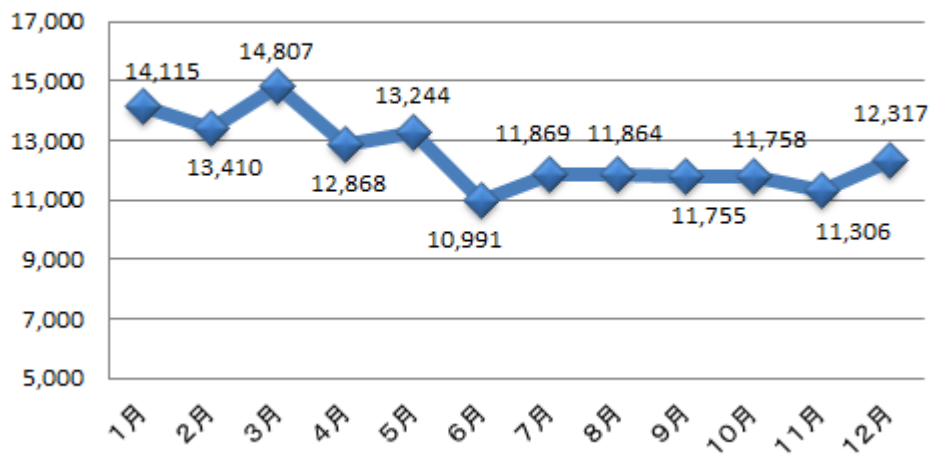


(7) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約 15 万人であり、平成 26 年と比べると約 7 千人の増となっている。



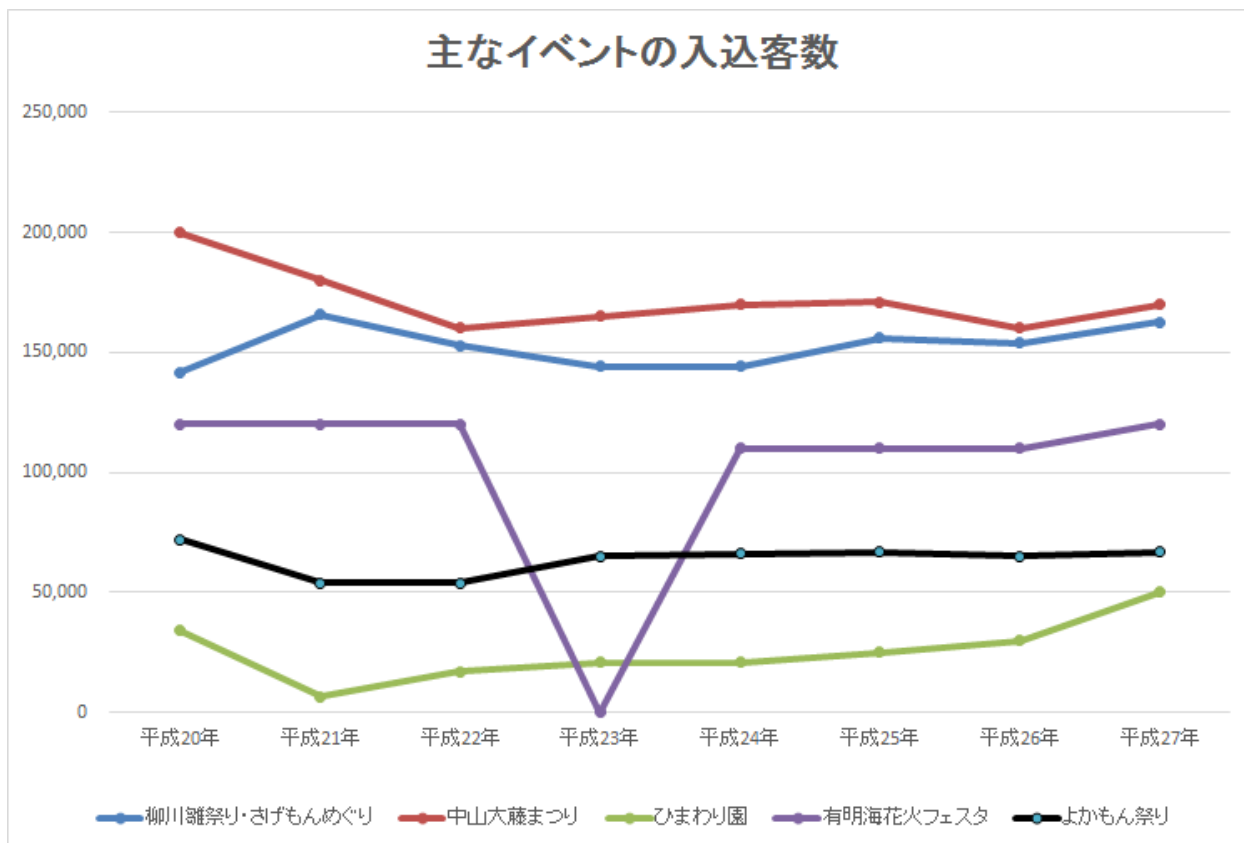
日帰り温泉客(月毎)



7. 主なイベントの入込客数

主なイベントの入込客数は主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」約16万3千人、「中山大藤まつり」約17万人となっている。

また、各種イベント「柳川雛祭り・さげもんめぐり」、「中山大藤まつり」、「ひまわり園」、「よかもん祭り」は聞き取り調査結果からも、市外からのお客様の割合が高まっている。駐車場で県外・福岡ナンバーの車も多くみられた。



8. 外国人観光客

外国人観光客は、約 15 万人で、平成 26 年と比べて約 5 万 9 千人の増加だった。国別にみると台湾、韓国、香港などのアジアからの観光客が大半を占めている。

全国の外国人観光客を見ても過去最高の 1,974 万人を記録し、九州でも前年比 69.1%増の 283 万 2 千人が訪れている。国別にみると、韓国が約 122 万人、台湾が約 28 万人、中国が約 20 万人となっている。

また、福岡空港、博多港から入国した外国人が 4 年連続で過去最高の約 207 万人で、前年比約 73%の伸びがあった。国別では、中国、韓国、香港、台湾、米国、タイからの旅行者が多く、6 地域で 555 万人以上増加している。

